

## 会 議 録

会議の名称	令和7年度（2025年度）第1回つくば市子ども・子育て会議		
開催日時	令和7年（2025年）5月23日（金） 開会 13時30分 閉会 15時30分		
開催場所	つくば市役所 コミュニティ棟1階 会議室1		
事務局（担当課）	こども部事務局（こども政策課）		
出席者	委員	土井 隆義（会長）、小村 政文、マーサー美穂、千代原 義文、浦里 晴美、鈴木 朱里、大久保 良文、橋本 幸雄、園田 浩美、岡山 拓史、落合 美智子、柳下 浩一朗、宮田 征門、大戸 達之	
	事務局	（こども部）安曾部長、吉沼次長 （こども政策課）木村課長、小野課長補佐、飯塚係長 （こども未来センター）中山課長 （幼児保育課）岩田課長 （こども育成課）小林課長 （教育局）久保田局長、森田次長兼学務課長 （学務課）望月課長補佐	
公開・非公開の別	<input type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input checked="" type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	3人
非公開の場合はその理由	つくば市情報公開条例第5条 第1号、第3号に該当する情報を扱うため		
議題	協 議 事 項  (1) 第2期つくば市子ども・子育て支援プラン（令和6年度実績）の点検・評価の実施方法について		

会議録署名人		確定年月日	年	月	日
会 議 次 第	1 開 会				
	2 あいさつ				
	3 協議事項				
	4 そ の 他				
	5 閉 会				
<p><b>土井会長：</b> では、本日の協議事項に入りたいと思います。まず協議事項の1、第2期つくば市子ども・子育て支援プラン、令和6年度実績の点検・評価の実施方法につきましてです。では、協議事項1、第2期つくば市子ども・子育て支援プランの令和6年度実績の点検・評価方法につきまして、まずは事務局から説明をお願いいたします。</p> <p><b>事務局（こども政策課）：</b> 資料に基づき説明。</p> <p><b>土井会長：</b> ありがとうございます。点検・評価自体は次回になりますので、今日はその方法についての確認になります。本年度から第3期のプランが動き出していますが、今年度からのため、このプランの点検・評価は来年度ということになります。従って、次回行っていく点検・評価は、第2期の最後のもの、昨年度行ったものになります。ですので、点検方法、評価の方法も前年度を引き継いで、今回事務局からご提案いただいたという形になっています。もしも大きく変えるのであればおそらく、第3期が来年度から評価がありますから、ここで大きく変えることはあるのかなとは思っております。とはいえ、前回もこの評価基準等についていろいろとご意見があって、多少修正等も入っていますので、第2期の最後とはいえ、改めてご確認をいただいて何か良い修正案があれば、また議論したいと思っておりますのでよろしくをお願いいたします。</p> <p>ではこの第2期の最後になりますけども、昨年度の達成状況の点検・評価のやり方につきまして、今の事務局からのご説明に対して何かご意見等ある方は、</p>					

手を挙げていただきます。ではお願いいたします。

**柳下委員**：柳下です。これは市の独自のいろいろな事情があると思うのですが、評価をするのは次のためですよね。だから例えば令和6年度というのは6年度末には評価をしていないと、職員も異動して、担当も変わっていくのではないかと思うのですが、年度のことは年度内に反省したほうが、旬がいいというか、私の発想はそうですが、きっと何かデータがそろわないとか、何かしらあるのではないかと思うのですが、人の評価はやはり鮮度が大事だと思うのですよね。終わったものを今から振り返ってやることは、少しデメリットがあるのではないかと思いますので、どうしてもこうになってしまうというものがありましたら、教えていただければと思います。

**土井会長**：ありがとうございます。これも次回やるしかないもので、もうこれは時間を早めるわけにはいかないというか、巻き戻すわけにはいかないもので、間があきますけれどもこういう事情になっていることのご説明があれば。いかがでしょうか。

**事務局（こども政策課）**：こども政策課の木村です。こちらの評価については実績を基に評価していただくものになりますので、あくまでも年度末3月31日までの実績を確定した上で評価をすることになるので、年度内での評価となると途中経過の評価となってしまうため、新年度になってからの評価をお願いしているところです。

**土井会長**：よろしいですか。そうすると、今回はしょうがないですが、今度の第3期のプラン第1回目の評価を来年度やるときの課題としては、例えば、3月31日に終わって、それから、締めて集計をとって、データをそろえて、この5月のこの会議で点検・評価をするというのが一番最短ですか。そのためにはおそらく、3月ぐらいの会議で点検・評価の方法をご確認いただいております、その点検・評価の方法に基づいて、新年度の第1回目で実際に作業に入ることがご指摘のことを踏まえてやるならば、そういった形になるかなと思います。

ます。これをどうするかは、私たちが決めてよいのか、あるいは事務局サイドから何かご要望があるのか、お伺いしてよろしいですか。

もしも、もう変えられない事情があれば、1回、ワンクッション挟むしか仕方ないですが、一部委員の入れ替えもあつたりしますので、1回挟むことがいいかもしれませんが、1回目と2回目をなるべく近くするとか、いろいろ考えられると思いますがいかがでしょうか。

**事務局（こども政策課）**：こども政策課です。このことについて一旦持ち帰らせていただいて検討させていただきたいと思います。

**土井会長**：わかりました。ありがとうございます。では、まずは私たちの意見をまとめたいと思います。

**橋本委員**：橋本です。確かに柳下委員の言うことはごもっともだと思います。しかし私たちは意見を述べて済んでしまうところが多いので、それをきちんとまとめて、表に出してくるのは事務局の役割なのだと思いますよね。そうした場合には、事務局がきちんとそれをできる体制ができてから、それをみんなで論じた方がいいのではないかと思います。ですから確かに、3月31日で締めて、そして私たちが集まって、云々というのは、ある意味では不可能だと思います。

**土井会長**：ですので、今の私が申し上げた案は来年度のこの会議、つまり5月の会議でやるか、従来通り5月では方法だけの確認をして、次の夏の会議でやるのかということをお伺いしたいと思います。

**橋本委員**：それは事務局のでき次第だと思います。

**土井会長**：もし事務局が、この5月の会議で対応可能ですとなった場合に、私たちとしてはそれを希望するか、あるいは従来通りとするかは、私たちが態度を決めないといけないので、まずはそのご意見を今お伺いしたいと思っています。

**柳下委員**：柳下です。事情はわかります。私が一番思っているのは、人ですよ。その担当をした人が異動をしてしまって、異動がある学校もそうなのだけ

れど、そこをつなぐということが大事だと思うのです。年度末に、3月の年度末でなくてはわからないデータというものはあまりないです。年間や年度の1年間やっているものというのは、経過的に3年で、ほとんどがその前で終わってしまう事業もいっぱいあるのですよね。大事なのは、データが出なくてはできない判断というものはもちろんそうですけれど、年度末でできそうなもので、旬な人が言ったことをきちんと課の判断ですと言いますけれど、やはりその担当した人が生でつなぐことが大事です。そのため、それをきちんとしていただければ私は別にいいと思うのです。私が一番言っているのは、その反省をする人の旬の問題です。そのため、よりよいものを反省に活かすということは、やはりそのやった人が言ったことが次に生きるというときに、やはりやりがいがあると思うのです。異動してから、なかなか市役所の中では、聞きに行くというのは、あまり遠慮してしないのではないかと思います。だから、完璧ではなくてもいいのだけれど、この事業に関してはやっているというのならそれでいいのです。担当の方の意見がどうしても必要な政策のため、部内できちんとそういう時間を取っています。すべてやれとは言わないのだけれど、人の旬というものをぜひ活かしていただきたいと思いました。

**土井会長：**そうすると今おっしゃっているご趣旨は5月のこの会議で実質的に点検・評価を行うということではなく、もっと早めて年度内に、中間になるけれども、閉める前だけれども3月にできれば、点検・評価をしたいというそういうご趣旨ですか。

**柳下委員：**具体的に言うと、異動する人のためです。残っていれば何も問題ないではないですか。つまり異動する人のご意見を十分に吸い取って欲しいということです。

**土井会長：**私たちの点検・評価の前にやるということですから、つまり今問題になっていることはこの点検・評価をまずいつやるかですよね。ただそれは夏にやろうと5月にやろうと、年度替わりでおそらく、職員は入れ替わっている

ので、入れ替わってしまったのが問題ならば、5月にやろうと、8月にやろうとあまり違いはないですよ。点検・評価の日には、前回やった方はよくご存じのように、担当部署に並んでいただいて、それぞれの方にヒアリングをしながら行うわけですからね。それぞれの部、職員の方の調整もあるだろうし、皆さん来ていただいてやるわけですよ。それを、5月にするのか、8月にするのか。あるいは、やはりその年度に担当した方にいてもらいたいのであれば、途中評価になるのだけれども3月にやるのかということになってくると思うのです。仮に3月に私たちが要望する場合には、おそらくこれは規定を変えないと年度末評価にならないから、条例が関わってくるのかどうかはわかりませんが、規定の変更になると思うので、結構これは大きく規定自体をいじらないといけないと思うのです。ただ、5月にできるか8月にできるかということは、これは実務の問題です。そのため、もしも対応可能ならばそれをお願いしてもいいと思いますがそれは私たちがそれを希望するかどうかです。私たちがそれを希望するかどうかを決めないと、事務局としてはおそらく対応できないと思いますから、まず私たちがどうするかですね。そのため今は3つです。つまり、規定を変えても、3月の末に、あくまでも、その年度の担当者がいる段階で途中経過でも構わないから点検・評価をしたいということです。この場合はおそらく規定をいじることになると思います。あるいは、もうそれは大変だろうから、年度が替わってでもいいからなるべく早くやりたいというときに、では従来の8月で少し間が空きすぎるから、5月にそれをやりたいならば、それが可能かどうかを事務局に、今回は調査を依頼するということになります。可能かどうかわかりませんが、あるいはもう私たちが、どうしても人が入れ替わっているのだから、別に5月だろうと、8月だろうと同じだと考えれば、従来通りでお願いしますということになると思うのです。そのため、この3択でどれにするかを、まず私たちの態度を決めるということが、ここでは話し合うべき、決めるべき案件になると思うのですが、そういう理解でよろしいですか。

**柳下委員**：そういった意味では8月でいいです。今事情を聞いて、3月にやることは相当無理があるということは理解できたので8月でいいです。たださきほど言った異動する方には、ぜひ、よくヒアリングをしていただきたいという要望です。

**土井会長**：それぞれの部署内でということですね。そうすると、熱が冷めないうちに言いますけれど、5月にやるということもあると思いますが、それは8月でも構わないということですか。

**柳下委員**：構いません。事務局は人も入れ替わっていますからね。

**土井会長**：しかしせっかくご提案いただいたので、他の委員の方、皆さんいかがでしょうか。従来通りでよろしいでしょうか。

**鈴木委員**：鈴木です。この資料の点検・評価を見るのはとても私たちも大変なところがあるので、これが送られてきて実際に一通り目を通して私たちが意見を述べるという時間も必要になってきます。いつもそこがタイトで結局あまりよく見れず、いざ会議ということが多い気がするので、従来通り8月に開催の場合、どのぐらいのスケジュールで私たちの手元に届いて、どのぐらいで見てくださいというスケジュール感を少し教えていただいてもよろしいですか。

**土井会長**：ありがとうございます。今のご趣旨は従来通り8月にやるにしても、もう少し早く資料が欲しいということですよ。いつもぎりぎりになるとなかなか読み込む時間がないので、これは要望レベルになると思いますが、ご事情を少しご説明いただいてもよろしいですか。

**事務局（こども政策課）**：こども政策課です。実はまだ第2回の会議開催の日時が決まっていませんので資料送付の時期などスケジュール感も今はお示しできないところです。ただ、鈴木委員から今ありましたように、資料を受領してから次の会議の意見出しまでの提出期限が少し短いというご意見をいただきましたので、今年度スケジュールを組むときにはそこは善処していきたいと考えております。

**土井会長：**ありがとうございます。今のご意見を踏まえるならば、むしろ8月の方がいいかもしれないですね。つまり、ぎりぎりに送っていただいても私たちも読む時間がないです。そうすると、早めに資料を送っていただいてしっかりと読み込んで、そしてここで点検・評価をするのであれば、早めに資料をいただくためには、やはり点検・評価自体は8月の方が、おそらく読み込む時間が私たちとしてはあるというメリットがあるかと思います。他の委員の皆様いかがでしょうか。

**園田委員：**学校もやはり、こういったアンケートをして次につなぎます。大事なのはバトンリレーですよ。引き継ぎをしっかりと行うというところを押さえれば、あとは事務局の方のタイムスケジュールなど、そういったものに寄り添えると思うのですが、学校は2月くらいに年度末には必ずその年度でしっかり責任を果たすという文化になっているので、異動の方の引き継ぎ事項もしっかりもらって、4月からスタートするというのが形になっているのです。行政の方の場合も引き継ぎは重要だと思うので、その引き継ぎの部分をしっかりしていただいて、バトンリレーがしっかりできるのであれば、私は8月でもいいのかなとは思いました。その引き継ぎというところが、どういった引き継ぎなのかなというのは私はよくわかっていないところです。

**橋本委員：**橋本です。だからという話になりますけれど、事務局次第で私たちはその資料をいただいて、そして鈴木委員が言ったように、少し読み込む時間をいただいてやっていると、5月と8月と限定された場合には5月は事務局も忙しいだろうと思います。それから私たちもその間が年度初めで忙しい人もいられるでしょうし、そうしたら8月頃でも妥当かなと思います。あくまでも、私たちは事務局次第でその資料を見ることができるのだと思います。いくら私たちが5月にやってほしいと言っても事務局ができないと言ったら、それは変な資料ができ上がってしまうだけであって、そして今、先生がおっしゃられたように、2月の文化だということもありますけれども、行政はきちんと3月31日まで

のことで、そのあとの事業があるなしにかかわらずきちんとやる。そして、行政の方は、引き継ぎはきちんとやっていますよ。やっていると思います。そう信じてもいいですよ。だから、きちんとでき次第、5月はやはり忙しいのではないかと思いますので、8月でゆったりした気持ちの中で、資料を検討しながら回答を出すというのがよいと思います。

**落合委員：**落合です。少し今の質問の趣旨と合っていないことかもしれないのですが、私も実際に準備期間を考えると、きっとこれがぎりぎりのスケジュールでやっていらっしゃるので、必ずしもこの時期に評価点検はしなくてもいいと思うのです。ただ、これまでの子ども・子育て会議に参加して結構最後の方がタイトになると、鈴木委員がおっしゃったように資料を読み込めなくて、何かわからないまま進んでしまうということがよくあるので、それがとてももったいないような気がします。それで今回はこの点検・評価の方法についてということで、お時間を取ってくださっているので、正直時間の余裕があってもありがたいと思うのですが、せつかくであれば今のご説明だけだとなかなか私も具体的にイメージができないので今言っても無理だと思うのですけれど、例えば、前の期のこの時期に行ったような点検・評価の、模擬的なものを少し一緒にできると、もう少しイメージできるのだろうなと思ったのです。例えばですけど、この重点項目としますと、2つに分かれているというところで評価の方法についても、それから項目についても出ていますが、例えば今までですとグループに分かれて作業したと思うのですが、そういった形できつと進めるのかなと思うと、そういったことを1回やってみて実際に今度8月までに、8月が2回目だとすれば、資料を読み込んで具体的にイメージしながら会議に出られたとしたら効率的かなと少しそういうことを思いました。

**土井会長：**今のご趣旨は点検・評価を1回だけで終わらせるのではなくて、前もって1回グループでやる、つまり2回やるということですよ。1グループで1回やって、さらにもう1回やってということでしょうか。

**落合委員**：今、ご説明いただいたような内容が、言葉だけだと実際にどういう作業をするかということがイメージできないので、模擬試験ではないですけど、こんな感じで進めるということを少し簡単にやってみるということです。

**土井会長**：それは私たちが評価する年度のデータではなくて前のデータというものを、例えば来年度の第1回目の会議で時間があればやるということですか。

**落合委員**：少しもったいないなと思ひまして、年間のスケジュール考えるととても詰まっています時間がないことをよく感じるので、次の回でもう少しスムーズに進めるためには、せつかくここで説明があったならば言葉だけではなくて少しやってみると、次につなげられるのではないかなという気がしたのです。

**土井会長**：わかりました、了解しました。もう1回間に開くわけではなくて、この会議で第1回目の年度初めの第1回の会議のときに、当然ながら来年度についても、点検・評価の方法についてご協議いただくので、そのときに、少し模擬的にデモンストレーションをやってみてはどうかということですね。

**落合委員**：おそらく会議自体を増やすのは少し予算都合上難しいと思うので、案件がなければ、時間的余裕が今回もおそらくあると思いますので、そこでそういうデモンストレーション的なことはできるかなとは思ひます。新しいデータではないからこんな感じでやったのですというデモンストレーションということですね。今日はおそらく、一切用意されていないでしょうから今日お願いしたいわけではなくて、来年度に対するご提案ですよ。

**事務局（こども政策課）**：ご意見ありがとうございます。そちらも含めて検討はさせていただければと思ひます。会長がおっしゃる通り案件の数も、今回はたまたま案件が少ないですけども、毎回何時間も委員の皆様には会議をしていただいておりますので、デモンストレーションの規模にもよるとは思ひますし、前提として、来年度提案させていただくのはあくまで事務局案です。そのためその案のデモンストレーションのような形を、案件の状況も見てというこ

とで、検討させていただくことはできるかなと思います。

**土井会長：**ありがとうございます。その点検方法について、まずここで承認されない、その方法に基づいてデモンストレーションをやっていただくことはできないので、まずは、次期の点検・評価の方法をご承認いただいて、それに基づいて前年度はこうやりましたという形でデモンストレーションしていただくという、おそらくそういった段取りになるかと思います。そのため、この時期について、今の大体のご意見の流れとしては、従来通り特に新しい要望を出さないでよいでしょう。従来よりもなるべく早く資料が整い次第委員に送ってくださいということは、私たちの要望としてももちろんできなければしょうがないですが、読み込む時間が欲しいので、なるべく早く次の資料をお送りくださいということをお願いして事務局に申し上げるということによろしいですか。

**柳下委員：**この点検シートの中身についてよいでしょうか。これは単年度の評価でよいのですよね。令和6年度は5年間の最後の年ということですが、この評価に関してはこの6年度のみですよね。そうすると、例えばこの5年間を通した評価はないですね。経年、去年と比べてどうこうとかいうことではなく1年の目的に対してどうだったか。そうしましたら、例えば次回の令和6年度をやるときにはこの令和5年度の評価をしたものというものは出せますか。そうしますと、昨年度どんな評価をして今年どんな評価をしたかの経年が見られるのです。やはり、せっかくの計画なのに、いつも単年の経過の視点しかないというのはもったいないと思うので、せめて最後ぐらい経年の視点もと思います。

**土井会長：**前年度のものは前回も出したと思います。毎回、資料として前年度はもらっていたと思います。

**柳下委員：**つけていただければ大丈夫です。

**土井会長：**単年度評価のときに、前年度のものはあるから、それを参考にしながら、今年はどう評価しようかできます。例えば、第2期プランの全体を取りまとめた評価は今はないという話ですよね。それはおそらく、第1期と比べて

第2期がどう変わったのかという評価は、おそらく本当はしないといけないと思うけれど、できていないということですよね。むしろ重要な点は、単年度評価しかしていないから、まとめて、その第2期全体の評価をどうするのかということですよね。8月の評価はあくまでも昨年度の評価で、第2期全体としての評価ではないですよね。

**事務局（こども政策課）**：ご意見ありがとうございます。一旦これもまた持ち帰り、検討させていただきたいです。

**土井会長**：ちなみに第1期が終わったときには、第1期全体通しての評価というものはあったのですか。単年度評価で終わったのですか。

**事務局（こども政策課）**：その年の職員がいなくて大変恐縮ですが、次のプランを作るときにそういった第1期の反省も活かして作っているという面では相対的にその評価をしているということはあるとは思いますが。その最後の年を大まか5年分としていたのか、最後も単年分だったのか今はわからないので、それは後でご報告させていただいてもよろしいでしょうか。

**千代原委員**：千代原です。ホームページを見ているのですけれども、第3期子ども・子育て支援プランはすでにホームページで公開されています。第2期も公開をされているということです。そのうえで、第1期が検索で引っかからなかったのも、おそらくあるのだろうと思うのですけれども、もしあるのであれば出していただければと思います。どうしてかということ、PDCAをするべきだろうと思うのです。第2期のものですね。そのため今話に出た良くなった点、悪くなった点、改善できたところと改善できなかったところというのをやはり検討するべきだろうと私は思います。

**土井会長**：ですので、次回私たちの評価の趣旨がどういった趣旨になるかによりけりだと思うのです。つまり、あくまでも単年度評価であれば、第1期は関係ないですよね。単年度で昨年度のものをその前と比べて評価をすれば良い話ですから。ただ、それを全体として5年間まとめて第2期の評価をするならば、

その前の第1期と比較をしないと第2期全体の評価ができないので、第1期のデータが必要だということになってきますよね。それは次回の第2回を8月に行うときの評価が、今の話だとこれは単年度の評価のため、第2期全体の取りまとめの評価を行うのか行わないのかということに関わってくるかと思えます。私たちは、この第3期を作るときには、第2期までのものを踏まえながら第3期を作ってきたはずではあるけれども、まだその段階では第2期は終わってはいなかったもので、これで第2期が終わった段階で5年間を総括するかどうかということですよ。これは検討課題ですね。これまでおそらくやっていなかったと思うので、おそらくないということはおそらく第1期もやっていなかった可能性があると思うので、期が終わったところで期を総括して評価をするということをするかどうかですよ。まずそれは私たちの意向がないと事務局としても動きはないと思うので、私たちがそれをすべきと思うかどうかはまず優先だと思います。これまでは単年度評価しかしてきませんでした。

**柳下委員：**私としては別にいいのではないかと思います。費用対効果を考えて、職員も変わっていて、第3期を決めたときに第2期を振り返りながらやっているんで、改めて第2期がどうだったかというのを皆さんで、データを見てやるというのは、何か過去に時間を取るのももったいない気がするんで、せめてさきほど言ったように毎年やっているというのは昨年度の評価があれば、私はもうこの劇的に変わっている、1年で変わっているというものが見えれば、私としては構いませんので費用対効果からいうと、過去にあまり時間とるのは、もったいない。

**土井会長：**よろしいですか。

**落合委員：**落合です。5年間の事業の評価をするということがどれぐらい大変なのか少しわからないのですが、計画が5年間ですよ。そうだとすると、やはり第2期の評価というのも、あったほうがいいかなと個人的に思うのですが、今おっしゃったように費用対効果と言われると、5年間の計画を、昨年度皆さ

んで協議しながら考えてこのプランができているわけで、その前にもそういった形でやってらっしゃったのだらうと思うので、できれば、その期ごとの評価というものはあったほうが次の5カ年を考えるときにもその参考になるのではないかと思います。5カ年でどう評価されるかということは少しあったほうがいいかと思います。

**土井会長：**おそらく職員の仕事量は増えますよね。相当手間だとは思いますが、それが重要ならばやはりそれはやってもらいたいことではあるけれども、費用対効果を考えてさほど重要でなければ、そこまでして仕事を増やすことはないかということもあります。

**園田委員：**5カ年の経年変化を見るよりは、ゴールの姿をしっかりと次につなげていくという考え方をすると今まで通りでいいと思います。

**土井会長：**そうすると私たちは今度8月頃にやるもので昨年度のものを評価するけれども、その経年変化と評価とおっしゃることは単に単年度評価だけではなくて、単年度評価なのだけれども一応今回は節目そのためこの5年間を振り返りつつ、単年度評価をまとめるという理解でよろしいですか。

**園田委員：**最終年度を最後の総括にするという趣旨での単年度評価です。という趣旨でお話をしました。

**土井会長：**でもそうすると、最後ということは、第2期の全体の総括ということになりますよね。

**園田委員：**最終年度が最後の総括にするということのため、単年度という趣旨でお話をしました。

**土井会長：**わかりました。ですから、次に行く評価は、昨年度の単年度評価であると同時に5年間の総括も兼ねているということですね。

**園田委員：**はい。

**土井会長：**わかりました。私たちがそういう心構えでやるかどうかですね。あくまで単年度評価に済みますのか、5年間総括するつもりでやるかどうかだと思

います。

**宮田委員：**今はたまたまタイミングが悪いと思うのですが、第2期の評価を今やろうとしているのですね。でもすでに第3期は走っているのですよね。プランの実施状況の確認と見直しを図っていくために評価をするわけですが、今我々がこのタイミングで第2期について確認をして、もしできなかったことに対して何か提案があった場合に、実はその項目が第3期になかったら、見直しも何もないわけですね。そこのギャップをどうするのかということがとても気になっています。最終年度に5年間の振り返りをするのは確かに必要だと思うのですが、それをこのタイミングにやっても遅いのではないかなという気がします。提案としては、中間となる3年目に、その期が始まってからの3年間の評価をすれば、その後の2年間のプランを考えるときの足しになると思います。または、年度単位で評価をやって3年目の評価は、少し過去も踏まえたような評価をするというようなアイデアもあるのではないかと思います。

**土井会長：**ありがとうございます。おそらくフォーマルにはやっていませんが、私たちは、それをやってきたのですよね。つまり第2期のそこまでの成果を踏まえて今回の第3期を作ってきて、それがこの4月から動き始めているので、実質はおそらくやってきているはずですが、それをきちんと中間評価という形で正式にやったほうがいいのかもしいかなと思います。

**大戸委員：**計画期間というものが第3期の3ページのところに書いてありまして、第3期は適宜見直しという項目がございますよね。ですから、第2期の見直しをして、それが第3期の期間中にまた適宜見直しに繋がるといいますので、全く意味のないものではないのだろうとは思いました。

**土井会長：**ありがとうございます。見直しができるのだから軌道修正は少しできるということですね。では、今の大体の流れとしては、次回は単年度で昨年度の評価をするけれど、その時に、ちょうど切りがいいので、総括の意味合

いもここに込めて私たちはやりましょう、そういう心構え、態度で臨みましょうというところかと私は理解をしておりますが、それで間違いはないですか。ということは、これまでご用意いただいたときに前年度の資料はご用意いただきましたけれど、その前までは全部でしたか。前年度だけでしたよね。そのため今回は資料をお配りいただければ良いので、参考資料は前年度だけではなく、第2期の最初からの継続資料をいただくということになるかと思います。だから5年分ですよ。それは事務局は大丈夫でしょうか。これは資源の問題もあっておそらく紙での配付はかなりきついと思うので、できればPDFか何かでいただいてそれぞれでタブレット等でお持ちいただくのがいいかと私は個人的に思います。紙でないとだめだという人もいらっしゃるかもしれないのですがそこまで要求しますか。紙でないと頭に入らないという人も中にはいらっしゃるから。皆さんどうですか。

**柳下委員：**1年分は紙でよいです。その前の4年分についてはデータで構わないです。

**土井会長：**他にご意見はありますか。では私たちとして事務局にお願いしたいのは、昨年度については紙でください。過去の4年分についてはデータでお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。ありがとうございます。ではその方針でいきたいと思えます。さきほどの鈴木委員のお話もあったように、次回いつ開くかということにも関わってきますが、なるべく早くデータを欲しいということですよ。おそらくこの後にご報告いただくものが1つあります。こちらに用意したものがああります。後から、それは皆さんの委員の中の有志の方で今、学習会を開いてくださっています。この学習会で、それぞれの案件に関わることについてあらかじめいろいろ勉強会をされていらっしゃるのです。そのため、できれば早めに資料をいただくと、その資料に基づいて勉強会もできるので、我々としては準備しやすいということもあるのかなと思います。いきなりここに来て評価するよりは、あらかじめ自分たちでやっている、その勉

強会で資料があればそこでどんな評価しようかという話し合いができるので、その意味も込めて、早めにデータをおそらく資料が欲しいということだと思えます。では、本件につきまして他に何かご意見はありますか。

**岡山委員：**私も直近は紙が良いと思っていました。ただポストに入らないサイズだと大変ですし、さすがにその厚みが送られてくると、少しぞっとするかなと思うので、薄い紙でお願いできたらと思いました。やはり8月にやられるというのは去年やったことと同じようなことをやるというイメージでよろしかったですか。そうなったときに資料をどれだけ各委員が読み込んで咀嚼できているかどうかということが私はとても大事なのかなと思っておりまして、なかなかその予習が追いついていないでその会議に入ってしまうと、その時間内で意見を交換してそれに対する評価というのが、あまり的確にできていなかったのではないかというのは少し印象としてありました。また、評価というものが今、AからDの4段階になっているのですが、先ほど意見の中にもあったのですが、その評価すべき計画がどこかで頓挫しているとか、止まっているとか、計画したらすべてを実行すべきものではなくて、その年々でもう1度見直すべきものなのではないかや、もしかしたら再計画をするべきことなのかとか、そういったAからD以外の道はありましたかという1つのこれは確認なのですね。やはりこの計画をしたら進んでいるか遅れているかというそのスピードと距離の何か判断基準しかなく、進めることがとても正しいかということとそうでもない。そういったケースもあるのかなと思うと、AからDではなくて別の何かその評価基準、何かそういった形がもう1個あってもいいのかなというのは去年やっていて思ったところです。

**土井会長：**ありがとうございます。前半のお話は、時期の問題ですね。まずこちらからいきたいと思いますが、そうすると、第2回の会議の日程を決めて、それから早く資料をくださいというよりはむしろ、資料が完成して送れる段階になったときから考えて、それから第2回を決めるということの方がいいと思

いますが、そのために私たちは、資料を送っていただいてから、会議は実際開くまでどのぐらいの読み込む期間を私たちが要するかによっておそらく事務局の方に、第2回はこのぐらいに開いてくださいとお願いすることになると思いますので、どのぐらいの期間が必要になりますかね。

**岡山委員**：3つのグループがあってどれを希望されますかというおそらく確認が入っていたのですけれど、その後に資料が届いていましたか。資料は先でしたか。それ次第で読み込む部分がやはり変わるのかなと思いました。

**事務局（こども政策課）**：ありがとうございます。どのグループかの希望調査の後に送ったと認識しています

**岡山委員**：ということですよ。私は1ヶ月前や3週間前ぐらいに資料が届いて自分の所属するグループがクリアになっていればいいというのが個人的な感想です。

**土井会長**：ではまずグループのご意向を伺うので、それで調整をしてグループ分けをしますね。そのグループが決まってから、それから資料をお送りする。資料が届いてから1ヶ月ですか。1ヶ月程度時間をおいてから第2回目の会議を開いてくださいということ、1ヶ月後以降ということが私たちの要望ということで事務局には申し入れるということによろしいですか。

一応、会としてはそういう意見ですが、今の段階で何かお答えになることはありますか。

**事務局（こども政策課）**：ありがとうございます。1ヶ月となると、なかなか、私どもとしてはかなりタイトなのですけれど、できる限り、皆さんが読める十分な時間を意識してお送りさせていただければと思います。今までも点検・評価のときは事前質問も受け付け、何度かラリーもありましたので、そういったところも踏まえた期間をどうするかということは、考えさせていただきたいと思います。あわせて、その会議の日程ということになりますと、他課が上げてくる案件なども踏まえて会議の日程は決めさせていただいているので、資料を

お渡ししてからこの時期に開催というよりは、我々として、やはり開催したい時期がありますので、そこから逆算してどういうタイミングでお渡しできるかということをし少し検討させていただければと思います。

**土井会長**：そうですね。認可事項などが入ってきますと期限が限られているので、いつまでに開かないといけないということがありますよね。つまりそれと、この点検・評価が日程的に連動するということですが、点検・評価のときには認可事項はやらないですよね。やりましたか。

**事務局（こども政策課）**：他課の案件によっては合わせてやることもあります。

**土井会長**：わかりました。認可案件があればしょうがないのでそれを考慮しながら、なるべく1ヶ月近くの読み込む時間をご考慮いただきたいと私たちとしてお願いをするということです。もう1件、評価の方法につきましてです。これは事務局からのご提案ですので、私たちがこれをどう考えるかだと思います。私たちが別の方法で評価をしたいということであれば、そういった方法を入れることもあり得ると思います。具体的にどういう評価を、このA B C D以外にどういう評価を入れたらよいかは課題で、具体的にご提案があればお願いします。

**岡山委員**：その計画したことをすべて路線に乗せて先に行かなくてはいけないということではないかなと思っています。別の路線に乗り換えるのか、もう1回Uターンするのか、いろいろな計画が今後出てくるのではないかと思います。そうなったときにこのAからDだけの評価では収まらないということも考えたときにそういった評価軸があったかという、これは確認なのですね。

でなかったら、そういったことも検討されるのかが、今日の議題はおそらくそこなのかと、思っていて今後もこの評価がずっとこのままでいいのかというところを議論しなければいけないことかと思ったので、そこに対しての意見と確認です。

**土井会長**：ありがとうございます。おっしゃるようにこれが本案件の中心です。

**事務局（こども政策課）**：ありがとうございます。はっきりとした明示という形で言えば、この事業自体を例えば止めるとか、いろいろなことの可能性のところについては触れていないので、そこは今後の評価の中で少し検討させていただければと思うのですけれども、委員のおっしゃる通りで、事業すべてをただ通せばいいというわけではないというのは事務局としても理解しているところですので、そういったときにAやBという数値でなかなか表せないところも十分にあるのだろうということで、自由記述欄を設けていて、その評価で見えないようなところであったり、その間に起こったコロナの時期などでやはりこういうところが必要だろうということでこの欄を設けたと記憶しているのですけれども、そういったところで、他に皆様にお伝えしたいところは書けるようにしているところではあります。

**土井会長**：おっしゃるように、このA B C D評価に入らないところは書いていただくこれまでのやり方ではあったのですが、そこをもう少し積極的に書いていただくということですか。

**柳下委員**：それはA B C Dの評価を入れなければいいのではないですか。その代わり自由記述に理由が載っていれば、評価に値しないと担当の方が思ったり、自由記述でその説明があれば、だから評価がないのですねとわかるわけですから。どうでしょうか。1つのアイデアです。

**土井会長**：それはありませんでしたか。数字で評価をできないものは評価をしないことはやっておりましたよね。

**事務局（こども政策課）**：過去にはなかったと認識しております。ただ、その数字だけで表せない事情などを、担当課によって書いていたというところなんです。そのため、何か事情があってこれはAやBという話ではない場合、もしかしたら空白や線を引っ張ったりということで対応というのも過去にあったのかなと思うのですけれど、幸いと言ったらいいかわからないのですけれど今まではなかったです。今ご提案いただいたのでそういった場合には例えば線を引くとい

うことにしておくとか、そういった少しルール決めにここに追加するというところについては、検討させていただきたいと思います。

**土井会長：**これまでは、その数値目標にそぐわないものについては、それを書いていただいて、自己評価ですから、A B C Dで評価は出してもらっていたわけですね。もっと詳しく書いてほしいと私たちが求めるのであったら、それはそうお伝えすればいい話です。そのため、私たちはそれに何を求めるかだと思います。私たちが評価するので、それぞれの部署に、やはりそれぞれ自己評価としてA B C Dというのが欲しいと思えば、従来通りA B C Dでつけていただく。数値目標にそぐわなければそこに理由を書いていただいて、A B C Dで自己評価してもらおうというふうに、これまでやってきたわけですが、少しくまなくいかない、よくわからないということであればそれもやめて、もっと詳しく、A B C D評価をやめて書いてもらおうという選択肢も用意するということになるかと思いますがいかががしますか。

**橋本委員：**岡山委員の提言はとても大切なことだったと思います。しかし自由記述になるとそれをまとめる方が大変なのだと思います。ですから、その部分で、今、岡山委員も少し言いましたけれども、見直しや取りやめなど、そういった部分のA B C Dではなく、この事業はやめる、延期する、見直しをするなど、もっと具体的な短い言葉で表現できるような表記にした方がまとめやすいのではないかと思います。そして、皆さんでそれを評価しやすいのではないかと思います。ただ、それをなぜやめるのか、どうなのかということは皆さんとの話し合いの中で、述べればいいのかと思います。岡山委員どうでしょうか。

**岡山委員：**表記ルールが必要であれば、私は何か再検討の「再」、再計画の「再」と、再という漢字を使うとか、そういったイメージだったのですよね。何も入っておらず、横棒だったら横棒でもいいかもしれないのですけれど、その数値だけで表せないものというのもやはりあるかと思ったので、そういったときの対

処法を作っておいた方がお互いの首を絞めなくていいのかなと私は思います。そしてそれを見た人が、それで理解しやすいのかなということなのですね。そういうことをやっている方がとても誠実にこの会議が行われているような印象にもなるのかなと思ったので、そういった希望になります。

**土井会長：** どのような方法でやるかですけれども、私自身は一委員として申し上げれば、その選択肢を用意しておくことは反対です。私たちは根拠があってこれを作ってきたわけだから、それは安易にやめてもらいたくないし、ニーズがあって作ったはずです。そのため、あらかじめそういう選択肢を用意しておくということは少しどうかという気がするのです。だからやはり新しくニーズが変わっていくのだったら、それはきちんと自由記述欄に書いてもらった方が私はいいと思います。簡略化して選択肢を用意するのは少し自己否定みたいな感じが私はしますけれどね。担当部署でそう思われるのであったら、きちんと文章を書いてくださいと私は思います。

**千代原委員：** 今の話について、昨年度も同じように、話が出たと私は記憶しています。昨年度もそうですし、その前の年も同じように何か似たような話が出たはずですので、今会長がおっしゃった通り、昨年度はこれに自由記述欄というものを新たに設け、今に至っているという経緯だと思うのですが、私はそれを維持していいのかなと思います。その自由記述欄のところに、各自それぞれの事情というものがあると思うのでそれを簡潔に記載していただければ、それで私はいいいのかなと思います。それで皆さんに伝わればいいのかなと私は思いますので、結論としては、去年のやり方をそのまま踏襲したほうがいいのかなと私は考えています。

**土井会長：** そうしますと、フォーマットは今までのままで、新しいご提案としては、例えばそこで自由記述案にきちっと書いていただければ、A B C Dをつけないという選択肢も、各部署にご提示をするということもあり得るのではないかと思いますよね。無理やりつけてもしょうがないからということですよ。

よね。その点はいかがですか。やはりA B C Dで欲しいですか、あるいはなくてもいいですか。

**岡山委員：**基本的には私も、評価の軸というのはそんなにコロコロ変えるべきものではないと思っていますのです。そのためAからDの評価、自由記述でいいと思うのですけれど、それに収まらないことがもしあるのであればそういったことを検討する必要もあるのかなという提案です。そのため、自由記述イコールそのAからDの表記がされてないということで問題ない、今後もそれで対応できるということならそれでいいかなと思っていますのですけれど、それを持って再検討してくださいという言葉がついていたほうがよければ、そういったプランもあるのかなということです。けれども、基本的には、全体を見回しておそらく経年でやはりいろいろ見ていきたいと思いますというところで評価の採点方法が変わっていったら、何を採点しているのかわからないという話だと思うので、そこは基本的にぶれないほうがいいかなと思います。

**土井会長：**そうしますと、ご趣旨としては今までどおりで行くけれども、きちんと担当部署でそれなりの理由があって自由記述案にきちんと書いてくだされば、その項目については、場合によってはA B C Dの自己評価を無理やり下していただく必要はないですよという、そういう選択肢も部署に与えますということだと思いますが、それでよろしいですか、反対意見の方いらっしゃいますか。すべてA B C Dで欲しいという方はいらっしゃいますか。いらっしゃらないですか。私たちはそういう意見です。そのため、そういった方針を伝えていただければと思います。他に何か、この評価の方法につきまして、ご意見はありますでしょうか。よろしいですか。では協議事項は以上にしたいと思います。事務局から用意をした報告事項はないのですけれども、先ほど少し触れました有志の皆さんで今、学習会をしてくださっているのです、これまでも、4回か5回か開かれていますので、せっかくなのでそのご報告と、それから今回新しい方も入っていらっしゃるため、少しご宣伝というか情報提供等をお願いできれば

ありがたいと思います。では、鈴木委員からお願いしてよろしいですか。

**鈴木委員：** こちらの子ども・子育て会議で私は2年ほど関わらせていただいています。昨年度、何回か会議に参加させていただいて、やはりわからない点などが多くありまして、他の委員である落合委員や間野委員と相談をしまして、お互い委員同士でもう少し理解を深めたりですとか、議題に上がっていることを深掘りしたりですとか、そういった交流を図ることを目的として少し学習会をしたいということを土井会長に昨年度お話をさせていただき、こちらの会をさせていただいています。今までに全3回やらせていただきまして、昨年度の委員も含めて、合計13名の方が登録されている状況です。なかなか皆さん予定もあるので全員参加とは難しいのですけれども、参加できるときに参加できる方がというスタイルでやらせていただいています。今こちらに簡単に箇条書きとして書かせてもらっているのですけれども、実際参加していただいた委員の方からも、こういったところがよかったのではないかや、逆にこういうところをもう少しこれから勉強していきたいですとか、そういったご意見などがありましたら実際参加された委員さんにもご感想などをお聞きしたいなと思うのですけれども、よろしいでしょうか。

**土井会長：** では皆さんの中に参加されている方が結構いらっしゃるかと思いますのでご発言ください。

**落合委員：** 落合です。この資料の中で、今までの意見交換学習会の様子とありますが、1回、2回、3回とあり、それぞれ参加された方もいらっしゃるのですが、私が説明するよりも実際に参加されてどんな感じだったかということを補足ではないですけど説明していただけるとありがたいです。第1回が3月3日、2回目が3月13日、3回目が4月22日と、全3回開催しております。それぞれいろいろなお話が出たのですが、議事録をとっていくと自由に意見を言えなくなってしまうという気持ちをお持ちの方もいらっしゃって、議事録は取らずに簡単なメモだけを取っています。ですからこれは本当にその一部だけなのです

けれど、こんなことについて話が出ましたということで、少しそのときの印象などを他の方にご説明いただこうと思うので、第1回目に出ていただいた岡山委員よろしいですか。

**岡山委員：**私は第1回に参加させていただいたのですが、おそらく3、40分ぐらいですかね、とても短い時間で退席してしまったので薄い印象になってしまうのですが、やはりこういった場ではない、有志で集まった場のため、とてもフランクにいろいろな意見が交換できるというのがまた新しい場として意味があるかなととても思いました。けれど、やはりスケジュールの調整をさきほどもお話していたのですが、なかなか時間を合わせるのが難しいなということが正直ありました。そのため希望になってしまうのですが、なるべくもう少し予定が早めにわかるととても嬉しいということは思ったところです。

**落合委員：**ありがとうございます。なかなか調整がうまくいなくて申し訳ありませんでした。そうしましたら2回目に、いろいろな方が参加していただいているのですが、2回目に出てくださった小村さんお願いします。

**小村委員：**私も福祉保健委員会の委員長として昨年の末から、この役を拝命したところなのですが、昨日娘も1歳になりまして、子育て当事者として励みながら、この会議に参加させてもらっている中で議会として参加するポジショニングみたいなものが何かよくわからなかったもので、改めて市民の公募で委員されている方々もいる中で、市民代表の方や、この執行部との仲介として議会としての立場もありつつどんなふうにしっかり行政に働きかけていけるかというところと、現場の声をどう吸い上げていけるかというところを勉強したく、参加させていただきました。やはり議事録をとらないおかげでざっくばらんな話が、現場の本当の声みたいところを交換できますし、プラン、アンケートなどをどういうふうにも評価して、第3期の計画につなげていくかというところのアンケートの読み方みたいところから、かなり初歩的な質問も気さくに受けていただいて、アンケートはこういうふうにとっていて、このような人

が回答しているというところから、情報、基準を合わせることができたのが非常に助かったと思っています。またそれに関わらず、例えば児童館で開催されているイベントのカレンダーをもらったり、ままと一んの会の紙をいただいたり、子育て当事者としても大変ためになる情報をたくさんいただいたので、子ども・子育て会議に加えて、本当に一人の親としても大変助けになったという会でした。

**落合委員：**ありがとうございます。そうしましたら、浦里さんをお願いしてよろしいですか。

**浦里委員：**はい。私は子育て支援組織に長くいるのですけれども、自分が子育てをしたのは、はるか30年前です。今の子育てといろいろなところが違います。もちろん価値感も違いますし、子育ての方法も違います。例えば一番驚いたのは、調乳をするときに、私たちの時代は適温にしてからミルクを入れてくださいという指導だったのですが、今は70度以上で調乳をしなさいということになっていたり、乳児期のまだ離乳食の始まらない時期に、お風呂上がりに白湯を飲ませるとか、そういったことも今はしてはいけないという最近の子育て事情を、勉強させていただきました。なるべく、今の子育てをしている方の価値観だとか、そういったものを吸収して、会議の運営に努めていきたいなと思っています。

**落合委員：**ありがとうございます。あとは出席率が高い千代原さんにもお願いします。

**千代原委員：**私は前回、1回2回3回とハイブリッドで開催しているということのため、私は仕事の休憩時間を利用して、Zoomから、毎回参加させていただいております。皆さん自由闊達な意見をされているので、議事録を取らないということが1つのメリットだろうと思います。とても自由に、ここがわからない、あそこはわからない、ここはどうなのかということ的自由に話されているので、これはとても大事なことだと思いますね。もう大分前だけれど、6年、

7年ぐらい前に、初めて子ども・子育て会議の委員になったとき、一番最初に何を話しているのかわからなかったという時期もあって、いろいろな委員の方に話をし、これはこういうふうに言えばいいとか、こういうふうに話をすればいいとか、いろいろ相談をさせていただきました。その中の1人として橋本委員がおられるのですが、そういうこともあって、今になって自由に気兼ねなく話せるようになってきたというので、オフィシャルな場ではなくてこういった学習会のようなところで、自由に話をするのがいいかなと思います。以前に、飯田先生が民間版の子ども・子育て会議というものを開催されて、当時、委員の山本美和さんらが先頭に立ってやりますよと宣伝されて、会議にも参加させていただいたのですが、それよりも、今されている学習交換会というのは、意見交換会などこじんまりとしたもので、内輪同士の委員だけで集まった、本当に、委員の中で、わからないことをこれはどうなのかという話をされているのを聞いているので、これはとてもいいなと思っています。議事録を取らないということもとてもいいと思うのですが、少しこの場を借りて聞いてお伺いしてよろしいですか。3回目の会で学童地域支援の話題になったと書いていますが、どういう内容なのか後でいいので、私に教えてください。

**落合委員：**橋本委員お願いします。

**橋本委員：**私は、第1回目だけでした。参加できたのはそれだけで、皆さんの参加者数はそんなに多くなくて、リモートでやられた方もいましたし、何よりも、コミュニティ棟を借りられたということがビックリしました。まず、普通ではなかなか難しいことだと思いますが、本来は、そういった忌憚のない意見を出し合えるというのはこの子ども・子育て会議なのだろうと思いますけれども、どうしてもなかなかそこは難しいので、そして、事前の打ち合わせというものはほとんどなくこの会議に出てくるということは、なかなかハードルが高いのではないかとということで、落合委員や、鈴木委員や間野委員が3人で勉強会を設けたということは、非常にいいことですね。何の知識もなく、会議に

臨んでも、何をそこで発言したらいいのかわからないという人は確かにたくさんいるのではないかと思います。そして、皆さんがどういう意見を述べたらいいいのかというものも本当に試行錯誤をしながら、迷いながら、その会議に臨んでいるのだという話でありました。いろいろとジャンルを分けて、今日はこういう話し合いをしようとか、こういう人の意見を聞くとか、何かそのように分かれているということは、会議を深めていくためにはとてもいい場だと感じました。2時間という時間でしたけれども、できればもっと、3時間でも4時間でも、何か食べながら飲みながらというような、そこまで発展していけばもっと忌憚のない意見が出されるのではないかと思います。今飯田先生の話も出ましたけれども、いわゆる、この子ども・子育て会議の前身から出ている人間の1人だと思ひまして、ある意味では歴史的な流れを存じ上げている1人かなと、どうもこの頃、年になってきたので忘れかけていることもたくさんあるのでふさわしくないかなということもあるのですが、基本的なことは、県の流れ、国の流れ、そして、市町村の子ども・子育て会議に来ている部分で何か路線が少し、おかしいのではないかと何かということも考えながら、その勉強会の中で述べられるということは、とてもよかったという感じもしております。これはますます、もっと頻繁に言い続けてもらえれば、いいのではないかと思います。

**落合委員：**ありがとうございます。土井会長もよろしかったらお願いします。

**土井会長：**私も橋本委員と同じく第1回目しか参加させていただいていないのですが、私も年なので、中身は飛んでいるのですけれど、印象に残っているのは千代原さんが歩きながら参加くださったことと、それから橋本委員が過去にいろいろと、これまでの経緯を少しご説明くださり、印象的だったのは、事務局もいろいろと大変なのだよねと橋本委員がおっしゃったことがとても印象的でした。また、おおむね本音で話ができるので、何ともよかったと思います。今回は特に、また評価が入るので、いきなり評価と言ってもわからないことが

たくさんありますから、そこで何か事前に勉強ができれば、とてもいいとは思っています。

**落合委員：**どうもありがとうございます。お時間をいただきありがとうございます。最後に一番下にある次回のご案内をお願いします。

**鈴木委員：**最後に次回の学習会のお知らせをさせていただいているのですが、6月13日の金曜日の2時半から4時半まで、市役所のコミュニティ棟の会議室4番の予約をさせていただいております。ハイブリッドで開催しますので、こちらの右のところにあるQRコードから、読み込んでいただいて、参加する、しない、そして、こちらの学習会にまだ入られていない方で少し興味があるという方も、こちらのQRコードからお願いします。また、すでに回答いただいている方も昨年度とはまた少し変わったこともひょっとしたらあるかもしれないのでもう少しこういうふうにしてもらいたいとか意見なども書けるような形で、フォームもちょっと変更させてもらっておりますので、お手数ですが、回答していただいた方も、再度こちらのQRコードから読み取っていただいて、ご回答の方よろしく願いいたします。

**土井会長：**ありがとうございました。では、他に委員の皆様、あるいは事務局から何か報告されたいことはありますか。

**柳下委員：**NHK ラジオで、朝、小一の子どもの家において、先に仕事に出てしまうという問題です。東京の鑑水小学校がインタビューを受けていて、前校長を知っていたので聞いていましたら、仕事のために親が家を出てしまうのです。しかし、家に残すと不安だと、どうしたらいいかという問題が大変出てきており、東京では12、3の市区町村とかが、その手当をして始めているということです。鑑水小の場合にはどうしているのかと言ったら、やはり地域のボランティアに朝に来てもらって、働き方改革で、職員を前のように朝早く置けないのですよね。この朝問題が出てきているということで、これはつくば市はそのうち出てきてしまうのではないかと考えているのです。アフタースクールは1つ

の流れでよくて、アフタースクールではないビフォースクール。この問題は、つくば市の子育て関係の方で、何か保護者から出ているということは何かありませんか。

**千代原委員：**朝問題に関して、特に学童保育で問題なのは、長期休暇の夏休み、冬休み、春休み、この3つがいつも問題になっています。私は実を言うと、日勤夜勤でやっており、日勤のときは、朝5時16分の快速に乗って会社に行くのですけれど、そのあと、6時台がとても乗る人が多く、大体6時台の人というのは、遠くまで、横浜ぐらいまでいってしまうのですね。横浜ぐらいまで行ってしまうので、その朝問題というのは、実を言うと学童保育でも以前から問題になっていて、特に夏休みなどなのですけれど、そういうときはどうするかというと、今話がありましたようにボランティアというところなのですけれど、学童保育では当番制で各クラブでやっているところとやっていないところがあります。保護者の方が、当番で朝、児童クラブのまだ閉まっている門のところに来て、子どもたちを集めて、見守っているというようなことを数年前からやっています。そういうことですので、今話があった通り、早く出勤するお父さんお母さんが大変ですよ。これをどういうふうにやっていくのかということとは1つの課題だろうと思います。

**土井会長：**ありがとうございます。私の世代は、私もそうだったのですけれど、鍵っ子と言われて、鍵をぶら下げていたのですよね。親がいないので、自分で閉めて、学校に行ってから鍵を開けて家に入っていました。今だからそういったいろいろなケアがあるということですね。何か他にご報告されたいことありますか。

**橋本委員：**朝早く子どもたちを置いていくということが、実は既にヨーロッパで始まっておりまして、平成27年に私の園の園舎を建て替えるために、原点である、ドイツのフレーベル幼稚園というところに視察に行つてこようと思つて行きましたところ、向こうの園長が、ヨーロッパでは朝6時に子どもたちが



**橋本委員**：しかし私たちは、きちんとそれを確認し合って、そして誰が迎えに来て、どういう人が来るのかという写真まできちんと私たちは確認してお預けしているということをやっておりますけれども、その辺を少し今日はこの会議の中で、お話しておきたいと思ってきました。

**土井会長**：報告なので承っておきます。

**マーサー委員**：こういった会に参加させていただいて、いろいろなことを吸収していきたいと思っています。私は幼稚園のPTAの代表で来ているのですが、未就学児がいて、市立の幼稚園に預けているということは預かり保育がなくて3時にお迎えになります。そのため、皆さんもお仕事など都合がありますでしょうし、市の方のご都合もあると思うのですが、できれば、3時のお迎えに間に合う時間でこういう会議とか、あとこの学習会もいいなと思ったのですが、2時半からだやはり、お迎えがあるからなんて思ってしまって足が遠のいたり、PTAを皆さんやりたくないというネガティブなイメージがすごく先行して、誰も会長をやりたくない、もうPTAをなくそうというところなので、1つハードルが下がって、子育て中のお母さんも参加できるような会があるといいのかなと思います。最後に、もしご検討いただければありがたいなと思います。お願いします。

**土井会長**：ありがとうございます。今日は完全に私が30分オーバーしてしまって申し訳ないです。ただ毎回大体この会議は5時もあるのですよね。だから、もしもそういうことがあれば、むしろ午前中に開くなどを検討し、できればしたいと思います。他にご報告ありますでしょうか。事務局から何か報告ありますか。よろしいですか。予定時間を30分オーバーしてしまいまして申し訳ありません。では本日の議事はこれで終わりにしたいと思います。では事務局にお返しいたします。

**事務局（こども政策課）**：土井会長ありがとうございました。本日の会議録は、後日皆様にご確認いただいた後に市のホームページで公開いたします。第2回

つくば市子ども・子育て会議につきましては、日程が決まり次第ご連絡いたしますので、よろしく願いいたします。以上をもちまして、令和7年度第1回つくば市子ども・子育て会議を閉会いたします。本日も貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。

以上

# 令和7年度（2025年度）第1回つくば市子ども・子育て会議

日時：令和7年（2025年）5月23日（金）

13時30分から15時00分まで

場所：コミュニティ棟1階 会議室1

## 〈 次 第 〉

1 開 会

2 挨拶

3 協議事項

- (1) 第2期つくば市子ども・子育て支援プラン（令和6年度実績）の点検・評価の実施方法について

4 その他



## 第2期つくば市子ども・子育て支援プラン（令和6年度実績）の 点検・評価の実施方法について

### 1 点検・評価の目的

第2期つくば市子ども・子育て支援プランについては、毎年度1回、つくば市子ども・子育て会議で実施状況の点検・評価を行い、その結果を各担当課へフィードバックすることでプランの着実な実施と必要に応じた見直しを図っています。

### 2 点検・評価の対象事業

#### ① 基本事業

プラン「第4章 施策の展開」の基本目標と事業の体系（P.34）に記載されている基本目標（Ⅰ～Ⅲ）に紐づけられている[基本事業（16事業）]

#### ② 重点事業

プラン「第5章 重点事業」の、

「3. 教育・保育の見込量と確保方策」（P.50～）

「4. 地域子ども・子育て支援事業の見込量と確保方策」（P.55～）

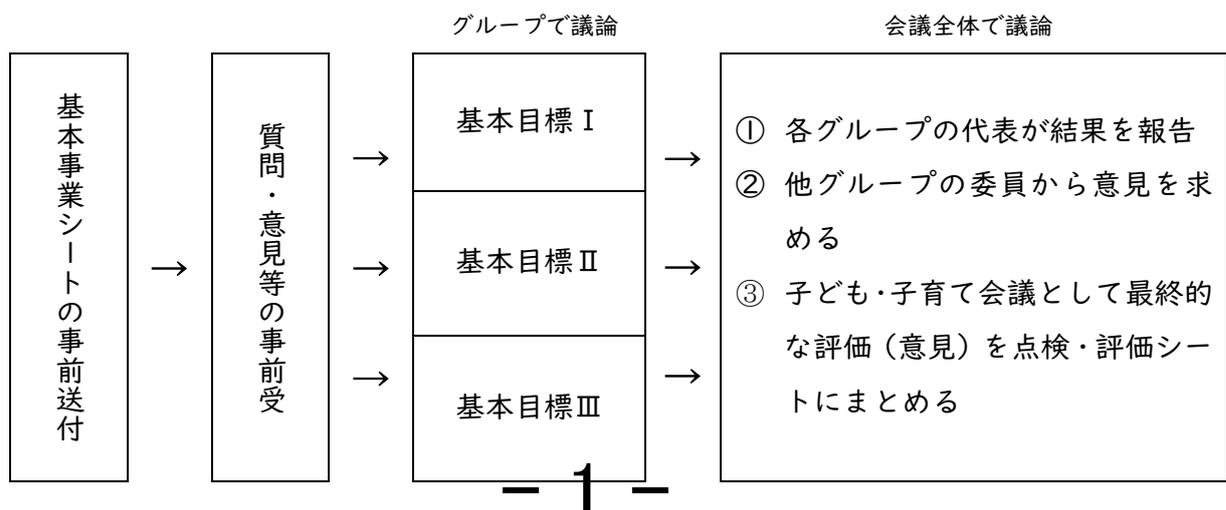
「5. 子育てのための施設等利用給付の円滑な実施の確保」（P.63～）

### 3 点検・評価方法

#### ① 基本事業

基本事業に関連した担当課が作成した「基本事業シート（別紙見本）」を、会議に先立って送付いたします。

当日は、事前に分けた3つのグループで、基本事業シートについて議論をしていただきます。その後、各グループでまとめた評価（意見）を会議全体で報告し、子ども・子育て会議の評価（意見）として「点検・評価シート（別紙見本）」にまとめます。



## ② 重点事業

重点事業に関連した担当課が作成した「重点項目評価表（別紙見本）」を使用します。評価表は、各事業の実績及び評価の基準<sup>(※)</sup>を基にしたA～Dの評価を記載しています。

当日は、担当課が作成した重点項目評価表について議論をしていただきます。

### ※評価の基準

評価	進捗・達成率（ 実際の確保数/目標確保数値 ）	
A	計画通り又は 計画に先行して進んでいる	100%以上
B	おおむね計画通り	80%-100%未満
C	遅れが生じている	50%-80%未満
D	大幅に遅れが生じている	50%未満

※達成率以外の数値で評価を行っている場合は、括弧書きで評価に使用した数値を併記した上で、自由記述欄にその理由を記載します。

※評価の参考として、達成率が100%を超えている場合は[A+]を併記します。

## 4 点検・評価結果の公表

会議での点検・評価結果は、事業を所管する各担当課へフィードバックし、翌年度以降の事業実施の参考とさせていただきます。

また、点検・評価結果は、市ホームページで公表します。

**<別紙見本> 基本事業シート**

令和6年度 つくば市子ども・子育て支援プラン基本事業シート 2

**基本目標** I たしかな生命と元気を育む

**基本方針** 1 継続的・包括的な支援の充実

**担当課**

子ども政策課	子ども未来センター	幼児保育課	
--------	-----------	-------	--

**基本事業** ②子育て世代包括支援事業 プラン記載ページ P36

**関連するプラン**

--

**■ 事業内容 ■**

○予防的な視点を基本とし、あかちゃん訪問等の訪問型（アウトリーチ型）と健康診査等の参加型（デイサービス型）、2つの型による様々な方法を用いて親子の状況を把握し、必要に応じて相談・援助を行うなどして、適切な支援につながる母子保健事業を実施します。

○地域子育て支援拠点など身近な場所で情報を提供したり、地域で活動する子育て支援者等の協力を得たりしながら、制度の谷間で必要な支援を受けることができずにいる親子を支援につなげる子育て支援事業を実施します。

○母子保健事業と子育て支援事業に関わる機関の連携・協力を得て、利用者支援事業の「母子保健型」と「基本・特定型」が連携した子育て世代包括支援事業によって継続的・包括的な支援の推進を図ります。

**■ 事業概要 ■**

**見本**

- ・担当課が作成したものを、会議に先立ってご提供します。
- ・本シートに対する事前質問も受付けており、会議当日までに事務局から回答させていただきます。
- ・会議当日は、それらのやり取りも踏まえ協議させていただきます。

実績	実績に対する課題・改善方針

**担当課 自由記述欄**（※子ども・子育て会議での協議に必要と思われる事項があれば記載してください。また、担当課として本事業シート作成の際に根拠とした資料等があり、子ども・子育て会議の協議に必要と思われる資料がある場合は、別途資料を提出してください。）

## <別紙見本> 点検・評価シート

2

令和6年度 つくば市子ども・子育て支援プラン点検・評価シート

基本目標 I 確かな生命と元気を育む

### 【目標】

妊娠期・出産期・子育て期のそれぞれの時期に対応した切れ目のない支援、地域や子育て親子同士による支え合いの支援など、子どもの成長・発達を視野に社会が一体となって子どもを育てる機運を盛り上げ、包括的な子育て環境の充実に図ります。

基本方針 I 継続的・包括的な支援の充実

基本事業 ②子育て世代包括支援事業

### ■子ども・子育て会議の評価（意見）【グループ】

#### 見本

- ・各グループにおける基本事業シートの評価（意見）を記載します。
- ※グループ内の意見等につきましては、本欄にて事務局で取りまとめます。
- ・会議全体でグループの代表に結果を報告していただきます。

### ■子ども・子育て会議の評価（意見）【追加・修正】

#### 見本

- ・各グループの代表に結果を報告していただいた後、他のグループの委員からも意見を求め、子ども・子育て会議の評価（意見）を記載します。
- ※会議全体での意見等につきましては、本欄にて事務局で取りまとめます。

## ＜別紙見本＞ 重点項目評価表

担当課：こども政策課

4② 地域子育て支援拠点事業

乳幼児及びその保護者が相互の交流を行う場所を開設し、子育てについての相談、情報の提供、助言その他の援助を行う事業です。

区分	(単位：人)	(単位：か所)	(単位：か所)	評価	
①量の見込み (年間利用人数)	215,146	②確保方策	施設数	10	/
			出張ひろば数	6	
①実際の量 (年間利用人数)	①	③実際の確保量	施設数		②
			出張ひろば数		
		達成率 (③/②)	施設数		③
			出張ひろば数		

参考

施設数・・・地域子育て支援拠点数

出張ひろば数・・・

●●保育所 ( )

【確保方策と大きな差が出ている場合その理由など（自由記述）】

④

### 見 本

- ① 令和6年度の実績を記載します。
- ② 令和6年度の実績を記載します。
- ③ 担当課による評価（A～D）を記載します。  
※参考として、達成率が100%を超えている場合は、[A+]を併記します。
- ④ 確保方策と大きな差が出ている場合や、達成率以外の数値で評価を行っている場合の理由を記載します。

<別紙見本> 重点項目評価表

重点項目評価表（意見）

事業 番号	重点項目	評価（意見）	担当課	プラン ページ
●	●●事業			
	●●事業			
●	●●事業			